市報 ぎょうだ No. 874
平成31年4月1日 発行

行田 歴史系譜 301

資料がかたる行田の歴史 1

忍藩の武芸

行田歴史系譜は「市報ぎょうだ」での連載開始以来25年、300回を超えました。本市には歴史・考古・民俗の各分野の豊富な資料が残されています。これらの資料を調べ、読み解き、考察していくと、新たな発見につながっていきます。今回から、郷土博物館学芸員が資料から調べた〝新たな歴史〟を紹介していきます。

第1回は忍藩の武芸についてです。武芸は戦国時代になると弓術や馬術、剣術などでより実践的な流派が生まれ、江戸時代になるとそれらが大きく花開き、諸大名は競って高名な武芸者を召し抱えました。松平家初代の松平忠明の家臣にも弓術の日置流道雪派（へきりゅうどうせつは）を開いた伴一安や、鍵屋の辻の決闘で有名な荒木又右衛門がいました。

松平家では桑名藩主時代の文化10年（1813）に設立した藩校進脩館の中に槍術場や剣術場、砲術場、弓術場を設け、藩士の子弟の鍛錬を行っていました。忍に転封後は武芸の稽古場は縮小されましたが、天保7年（1836）に書かれた「御家中諸芸段格帳」には忍藩主松平家家臣438人の武芸の流派や習熟のレベルが記されています。これによれば主な武芸と流派は、剣術が新陰流・一伝流・和田流、馬術が大坪当流・大坪本流、弓術が伴流・竹林流、砲術が荻野流・武衛流・安東流、槍術が大島流、宝蔵院流、軍学が北条流となっており、他に礼法、捕縛術などもあります。習得者が最も多いのが剣術で391人、ついで馬術が342人、軍学285人、砲術273人となっています。また藩士は一つの武芸だけではなく3つから6つ程度の武芸を習得するのが主流となっており、中には9つも習得していた藩士もいました。これらを見る限り、忍藩では武芸の習熟が停滞していたわけではなかったようです。

御家中諸芸段格帳

武芸の振興は藩主が主導する藩政改革や藩士教育と密接な関連があります。この視点から考えれば、なぜ藩の中で武芸が必要とされたのかを解く鍵となるでしょう。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

お話の玉手箱

子供たちに伝承物語などの読み聞かせを行い、本を読むことの楽しさを伝えながら、豊かな心が育つよう活動しているのがお話の玉手箱です。

同会は平成14年に発足し、現在11人の会員で活動しています。年に10回ほど、南小学校で始業前の15分間を使い、学年ごとに教室で昔話や童話など、担当者が選んだ本をその人なりの温かい声で読み聞かせています。

本を読み始めると教室は静まり返り、子供たちは物語の世界へ引き込まれたかのように聞き入っているそうです。読み聞かせ後には、目を輝かせながら話の感想を伝えに来てくれる子もいて、それが会の皆さんにとっての活動の原動力となっています。

「生きていると、楽しいことだけでなく理不尽なことや悲しいこともあります。本の中ではそれらがきちんと語られており、読み聞かせをすることで子供たちの心に何かしら残り、今後の成長の糧にしてもらえたら」と語ってくれた世話人の島田ユミ子さん。これからも読み聞かせを通じて、心の糧になる物語が詰まった玉手箱を、多くの子供たちに贈り続けてくれることでしょう。

【世話人】島田 ユミ子　【電話番号】556―7765

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～㉘

南小学校での読み聞かせの様子

今月の表紙　3月9日・10日、図書館で「ぬいぐるみおとまり会」が行われました。

これは、本や図書館に親しんでもらおうとアメリカで始まった取り組みで、同館では3回目。参加した子供たちは、お気に入りのぬいぐるみと一緒に絵本や紙芝居の読み聞かせを楽しんだ後、ぬいぐるみたちだけが同館に1泊しました。翌日、迎えに来た子供たちは、図書館の仕事をして過ごすぬいぐるみの様子を収めたアルバムを、うれしそうに受け取っていました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をデイジー版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601 行田市本丸2番5号
TEL 556―1111 FAX 550―2116